

# 所報

Shoho

川崎市総合教育センター

〒213-0001 川崎市高津区溝口 6-9-3

TEL 044-844-3600

代表メール KE130201@to.keins.city.kawasaki.jp

ホームページ http://Kawasaki-edu.jp/

## 授業研究と「温める」雰囲気づくり

川崎市総合教育センター 所長 佐藤 公孝



十数年前、「話すお手本になるから、一度落語に行くといいよ」とある先輩に誘われ、初めて、浅草、鈴木演芸場の「早朝寄席」に行きました。

「早朝寄席」は、前座や二つ目といわれる経験の浅い落語家さんたちの寄席です。若手の一生懸命さと誠実さが感じられる新鮮で楽しいものでした。一方で、張り切りすぎて声が大きく、かえって噺の内容が入ってこなかったり、お客さんの方が合わせて笑ったりするような印象も受け、人を笑わせることの難しさを強く感じました。「早朝寄席」は、若手の落語家さんが経験を積む大切な場であることを知りました。

落語初心者の私にとって「早朝寄席」は、基本的な演目や話し方、人を笑わせるつぼを学ぶよい機会になりました。そして、いつのまにか落語ファンになり、真打ちが高座をつとめる本格的な寄席に通うようになりました。

そこには、忙しい日常とは全く違うゆったりした時間の流れと穏やかな雰囲気がありました。お客さんは、お弁当やお酒を楽しむ人、寝ている人、一人真剣に聴いている人、実に様々です。噺の登場人物も、女将、大工、庄屋、大屋、和尚、医者、娘、小僧、旅芸人、武士、創作落語にいたっては、社長、新入社員、学校の校長、教員、生徒など、時代を超えた共生社会の世界が展開されていきます。真打ち一人ひとりの芸の高さもさることながら、途中には、色物という手品、ジャグリング、漫談、ものまねなどが入り、演者全員で、時間をかけ会場全体を様々な笑いを通して温めています。寄席では、この「温める」雰囲気づくりを何より大切にしているように感じます。

その雰囲気の中では、話し手と聞き手という関係か

ら、噺の中に全員が居るような一体感、そして、ささやかなしぐさや語り、絶妙な間や認識のズレから質のよい大笑い、くすくす笑い、微笑みが生まれます。隣の人が笑うと自分も笑い、自分が笑うとみんなも笑う感覚が生まれ、自宅への帰り道では、「今日は、笑った!」という実感だけが強く残ります。

さて、一見、全くつながりのない、教師の一時間一時間の授業と、落語家の一席一席の高座は似ていると思っています。授業は、児童生徒と一緒につくるもので、話して聞かそうと考えているうちは、思い通りになりません。しかし、若手の高座のように、授業研究で積極的に自分の授業を提案し、人に参観してもらい、内省を通して、自分なりに「手応えのある授業」の感覚を積み重ねていく経験が、教師の成長には不易なプロセスだと考えています。

また、学校、学年、学級づくりは、寄席全体でつくりあげる「温める」雰囲気づくりに似ています。児童生徒は1日、5・6時間の授業、休み時間、給食、係活動、部活動など、教育課程全体で成長します。多くの教職員や保護者・地域の方々がかかわり、学びに向かう雰囲気、自分の役割を担う雰囲気、どんなことでも相談できる雰囲気などを、学校目標や育てたい資質・能力に沿って学校、学年、学級のそれぞれの集団レベルで計画的・組織的でありながら経験値も大切に、温めていくことが重要です。そのような温かな雰囲気が、児童生徒にとって、「今日は、学校が楽しかった。」「今日は、授業でよく話し合った。」と実感できる授業や学校生活につながると信じています。コロナ禍の今、強く、強く信じていこうと思います。

### 令和3年度『所報』第2号 主な内容

【巻頭言】

授業研究と「温める」雰囲気づくり…………… 1

【特集】かわさき GIGA スクール構想…………… 2・3  
(情報・視聴覚センター)

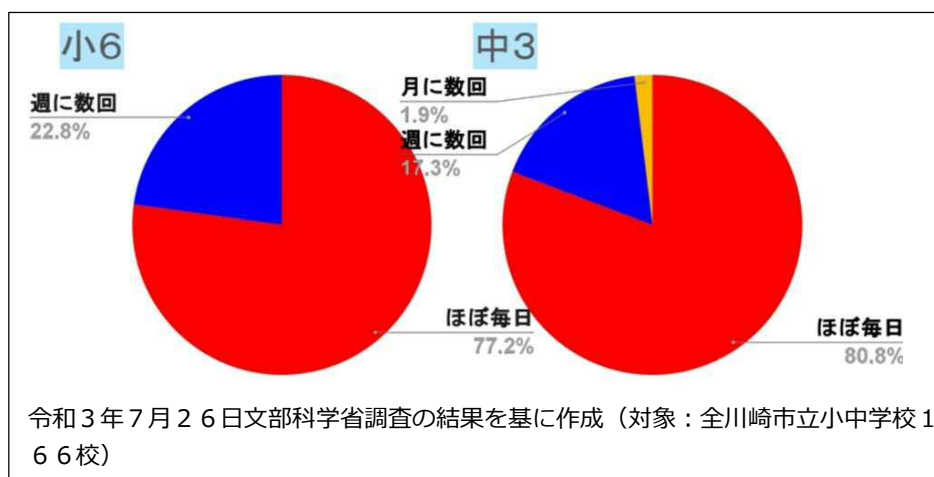
カリキュラムセンター…………… 4

特別支援教育センター…………… 5

教育相談センター…………… 6

## GIGA 端末の活用が進んでいます

川崎市立学校の義務教育段階の児童生徒に1人1台の端末と高速大容量の通信ネットワークが整備され、「かわさきGIGAスクール構想」が令和3年度からスタートしました。今年度はステップ0、1の「インターネットにつながることで、『いつでも』『どの教科でも』使えることを実感する」を目指しています。「とにかく使ってみる」を合言葉に、情報教育担当者やGIGAスクール構想推進教師（以下GSL）の方を中心に、かわさきGIGAスクール構想の推進に向けた体制作りや校内研修等の取組を進めています。スタートして3か月が経った7月時点で、「GIGA端末を毎日活用している」という学校は、小学校、中学校ともに約8割にも上るなど、各学校において着実に端末の利活用が促進されています。夏季休業までにGIGA端末を家庭に持ち帰って接続確認することができ、また、9月の緊急事態宣言下では、やむを得ず登校を控えた児童生徒向けに、オンラインによる授業配信やその他学習支援等にGIGA端末を活用することもできました。



## 先生方も研修で操作技術向上

かわさきGIGAスクール構想推進に向けて、GSL研修や学校ごとの操作研修など、これまで数々の研修がありました。どの研修でも、先生方がGIGA端末の活用場面をイメージしながら熱心に取り組む姿が見られました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、オンラインでの実施となりました夏季休業中の研修についても、連日、受講者の熱意が端末の画面から伝わってきました。

さらにいくつかの学校からの要望を受けて、情報モラル、GIGA端末操作や授業活用などについて各学校の実態に応じた内容でのリクエスト研修も行いました。

8月31日、9月1日にはGSL地区別研修会を行いました。この研修のねらいはこれからの実践に生かしていくことでした。事前にこれまでの各学校での取組をスライド1枚で作成し、実践事例を共有しながら、それを基に地区別のグループで協議しました。どのグループも実践事例だけでなく、端末活用推進の上での悩みや工夫なども共有しながら、具体的な話し合いを進めていまし



夏季休業前に行われた集合型研修の様子。先生方はGIGA端末の活用場面をイメージしながら実際に端末を操作しながら参加しました。





オンラインによる企業研修の様子。オンラインで講師と各学校の先生方がつながり、端末操作技術等の向上に努めました。



第2回G S L地区別研修会の様子。オンラインで各学校の先生同士でつながり、スライドを基に情報交換を行いました。

た。後期からの実践に向けて手ごたえを感じることが出来る有意義な時間となっていました。

10月からは、放課後の45分間を使ってオンラインによる操作研修を実施しています。これまでの研修で行われたアンケートの結果などから先生方が感じている課題や要望を基に、研修内容を検討しました。10月には7回研修を実施して、延べ約350名の先生方が参加しました。

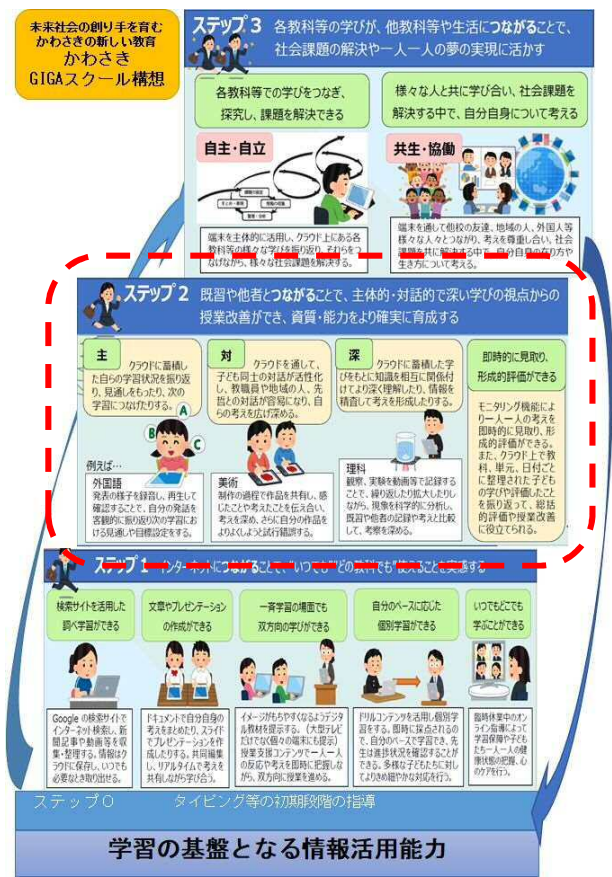
「一人の百歩より、百人の一步」の言葉のように、端末操作が得意な一部の先生だけでなく、苦手な先生も一緒に、川崎市全体として、「かわさきGIGAスクール構想」を推進しています。

放課後45分間のミニオンライン研修を実施。多くの先生方が参加しています。

## ステップ2に向けて

かわさきGIGAスクール構想は3年間かけて、あせらずにじっくりと、段階的に全体の底上げを図りながら、着実に推進する計画となっています。今年度はステップ0、1で、「とにかく使ってみる」を合言葉に取組を進めており、Web会議システムを用いて全校集会を行ったり、子どもたちが係活動や委員会活動でアンケートを作成したりする様子も報告されています。また、様々な理由で登校ができない児童生徒に対し、学びの保証に向けたオンラインによる授業配信等も行っているなど、各学校がやってみようと思ったことにどんどんチャレンジしており、ステップ0、1の段階での活用が進んでいます。

さて、来年度はステップ2の年になります。ステップ2は、授業等において、GIGA端末をただ使っていくだけでなく、効果的に活用し、より学習内容を深めていく段階となります。令和4年度も川崎市一丸となって、かわさきGIGAスクール構想の推進を図ってまいります。



令和4年度はステップ2の年となります。

学習指導要領(平成 29 年告示)が小・中学校で全面实施となり、来年度からは高等学校でも年次進行で実施されます。実施にあたっては、指導と評価の一体化の視点からも、学習評価がポイントになってきます。今回は、先生方から多くご質問いただく「主体的に学習に取り組む態度」の評価について考えていきます。

## 「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価について

### ◆何を評価するのですか？

知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。

学習に関して自己調整をすること、粘り強く取り組むこと、この両方を評価するのですね。



### ◆具体的にどのような子どもの学びの姿をイメージすればいいですか？



①モルモットに触れるようになりたいなあ。でも怖いなあ。

②まずお友達がどうやって触っているのか見てみよう！

③なんとなくわかったけど、まだ怖いなあ。あ、手袋を付けてみたら触れるかも！

小学校生活科の例

④手袋付けて毎日ちよつとずつやってみたら、触れるようになった！

⑤手袋なしでも触れるようになったよ。他の生き物も触ってみたいなあ！



①江戸の社会はどのように築かれ、変化していったのだろう。小学校で習ったことを思い出しながら、産業と文化の視点で見たいなあ。

②産業の発達の様子がわかったよ。次の時間、文化の特色を調べるのに資料集だけでなく GIGA 端末でも調べてみよう。

中学校社会科の例

③班のメンバーとの情報の交流が効果的で、文化の広がりを実感できた。幕府の政治との関連を調べてみたいなあ。

④江戸の社会の変化を学んで、町人の勢いを感じたよ。次の時代でも庶民の思いや願いがキーワードになるのでは。

一時の形式的な態度（例えば挙手の回数やノートの取り方等）のみで判断できるものではないですね。単元を通した子どもの変容を見取っていくことを意識しましょう。



### ◆教師にはどのような授業デザインが求められますか？

例えば次のような工夫をしてみましょう。

子どもが自らの理解の状況を振り返ることができるような場面の設定と発問の工夫

自分の考えを記述したり、話し合ったりする場面の設定

他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面の設定



主体的・対話的で深い学びの視点からの学習・指導方法の改善を大切にしていましょ。また、評価結果については、子どもの姿を基に先生方同士でよく検討しましょ。

参考資料：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校生活科編 中学校社会科編）  
「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」(H31. 1月 中央教育審議会)

※ 詳しくは「学習評価の在り方ハンドブック（令和元年6月）」や「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（令和2年3月）」（ともに国立教育政策研究所）をご覧ください。





## 特別支援教育と1人1台端末

令和3年度から1人1台端末を活用した学びが始まりました。障害種別にかかわらず、「すぐに」「誰でも」「どの教科でも」使える道具としてICTを活用する能力を身に付け、児童生徒自身が学びを調整する力を育ていけるよう、特別支援教育センターでは、コーディネーター連絡会議や特別支援学校・特別支援学級担当者会、研修等で、特別支援教育の視点での端末の活用を推進してきました。

文部科学省の「各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する参考資料」では、特別支援教育におけるICT活用の視点として、次の二つが示されています。

### 特別支援教育におけるICT活用の2つの視点

教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするために、ICTを活用する視点

- 教科等又は教科等横断的な視点に立った資質・能力であり、障害の有無や学校種を超えた共通の視点。
- 各教科等の授業において、他の児童生徒と同様に実施。

障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するために、ICTを活用する視点

- 自立活動の視点であり、特別な支援が必要な児童生徒に特化した視点。
- 各教科及び自立活動の授業において、個々の実態等に応じて実施。

### 学習上又は生活上の困難さに応じた活用例



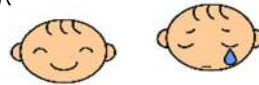
#### 1. 読み書きの困難さ

- 音声入力機能
- 音声読み上げ機能
- 板書を写真で撮る
- スクリーンショット



#### 2. 意思を伝える困難さ

- スライドを利用して絵カードの選択



#### 3. 話を聞く困難さ

- 動画を撮影する
- 字幕機能



### 個別最適な学びの実現のために、目的をもって効果的な活用を！！

令和4年度は、ステップ2の「既習や他者とつながることで、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善ができ、資質・能力をより確実に育成する」ことを目指して取り組んでいきます。

研修の中で群馬大学の霜田先生から、これからの1人1台端末の活用について、「GIGA 端末を普通の授業の代替手段として使っていただくだけではなく、それではできないという可能性について考えていくことも大切である。今までの指導の良さ、GIGA 端末の良さの両者のいい部分を合わせることで、教科の学びや児童生徒の困難に応じた活用がより効果的な活用につながる。」とのお話がありました。

今年度、皆さんが取り組んでいることをさらにステップアップさせていけるよう、引き続き特別支援教育センターでも会議や研修等で活用事例や方法を学べる機会を設け、活用を推進していきます。皆さん積極的にご参加ください。

## 子どもに寄り添った支援のために

### 川崎市の不登校児童生徒数の現状から

※( )は前年度との比較

令和2年度

不登校児童生徒数

小学生 807人  
(107人増)

中学生 1370人  
(19人減)



令和2年度 長期欠席児童生徒数

小学生 1271人 (262人増)  
うち新型コロナウイルスの感染回避 190人

中学生 1689人 (73人増)  
うち新型コロナウイルスの感染回避 119人

令和2年度 川崎市立小・中学校における

児童生徒の問題行動等の状況調査結果より

不登校の主な要因  
(主たる要因として回答された割合)

小学校		中学校	
無気力・不安	60%	無気力・不安	70%
親子の関わり方	13%	生活の乱れ(遊び、非行)	8%
生活の乱れ(遊び、非行)	10%	いじめを除く友人関係	6%
いじめを除く友人関係	4%	進級時等の不適応	3%
学業の不振	2%	学業の不振	3%

令和2年度

指導の結果、登校する又はできるようになった児童生徒

小学生 328人 (123人増)

中学生 348人 (76人増)

最近3年間の不登校の要因を比較すると、「無気力、不安」の傾向があるに該当する不登校児童生徒数がいずれの年も最多という結果がでています。コロナ不安も加わり、その背景にあるものは様々で、自分でもよくわからないけど、何だか不安ということも多いのです。

こうした子どもたちに寄り添った支援をするためには、よく話を聴いてあげることが大切です。子どもたちの気持ちをそのまま受け止めることで、多くの子どもたちは、不安を和らげることができると思います。(登校する又はできるようになった児童生徒も多くいます。)

教育相談センターは、今後も子どもたち・保護者の皆様により良い相談支援ができるよう努めてまいります。



#### スクール カウンセラー

市立中学校に配置しています。いじめ・不登校などのさまざまな課題について心理的な立場から学校で相談活動を行っています。

#### 学校巡回 カウンセラー

市立小学校、特別支援学校、高等学校に派遣しています。さまざまな課題について心理的な立場から相談活動を行っています。

#### 溝口相談室 塚越相談室

学校生活や子育て等のことについて、電話相談や相談室に来てもらっての来所相談を行っています。

#### ゆうゆう広場

市内に6か所あります。心理的な理由や様々な事情で学校に行けない小中学生が自分のペースに合わせて生活しています。

#### 不登校 家庭訪問相談

相談員が定期的に家庭を訪問し、家に閉じこもりがちな子どもや保護者との相談を行っています。

※詳しくは川崎市総合教育センターのホームページをご覧ください。